

フィンテック関連ニュースの株価への影響の分析

三 木 悠 史
三 輪 宏太郎 CMA

目 次

- | | |
|---------|---------|
| 1. はじめに | 4. 検証結果 |
| 2. 先行研究 | 5. おわりに |
| 3. 検証手法 | |

フィンテック関連のニュースが投資家の株式評価に与える影響を包括的に検証するため、2013年から2022年に公表された全業種の銘柄のフィンテックに関するプレスリリースを抽出し、株価反応を分析した。その結果、金融株より非金融株において特に顕著な正の株価反応が観測された。フィンテック関連ニュースは、非金融業の株価において重大な影響を与えており、広範な企業の株価に対して影響が及んでいることが示された。

1. はじめに

フィンテックは銀行をはじめとして、多くの企業の業務効率化を促進し、既存サービスの業務を取って代える可能性を持つ。フィンテックの導入およびフィンテック関連事業の投資が株式価値にどのように影響を与えるかについては、多くの投資家そして企業の関心事である。竹村ほか[2018]は、フィンテック導入の影響の解明のため、

2016年度に発行されたフィンテックに関するニュースリリースに対して、地方銀行の株価がどのように反応するかを分析している。その結果、ニュースリリースが地方銀行の株価にプラスの影響を与えていることを報告している。しかし、その効果はニュースリリース日から数日遅れて現れ、結果の統計的有意性は十分であるとは言い難い。加えて、竹村・武田[2019]は、異常収益率の計算方法を変えて再検証を行った結果、有意な株



三木 悠史 (みき ゆうじ)

九州大学大学院修士課程。2022年九州大学経済学部学士課程卒業。同年より九州大学大学院経済学部修士課程に在籍。



三輪 宏太郎 (みわ こうたろう)

九州大学経済学研究院教授。東京大学大学院博士課程修了(学術)。東京海上アセットマネジメント クオンツアナリストを経て現職。専門は、行動ファイナンス、マーケットマイクロストラクチャー。アナリストレポートやソーシャルメディアの株価への影響に関する論文でASX Prize、SFM Research Paper Award、SWFA Best Paper (Behavioral Finance) を国際学会において受賞。